

知の市場の概要 —理念と実践— (2010年度確定版)

1. 理念と運営

「知の市場(FMW: Free Market of・by・for Wisdom)」は、「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社学連携」を旗印として実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して、人々が自己研鑽と自己実現のために集う場とし、理念と基本方針を共有しつつ協働する受講者、講師、友の会、開講機関、連携機関、連携学会、協力者、協力機関、知の市場事務局などのそれぞれの活動によって構築する。

「知の市場」は、自立的で解放的な協力関係を形成しながら人々が立場を越えて自律的な判断により自ら活動する場(Voluntary Open Network Multiversity)である。2004年度に「化学・生物総合管理の再教育講座」として開講して以来、総合的かつ実践的な学習の機会を提供し、全国から大きな反響を得るとともに、開講機関や連携機関との協力関係を構築しつつ講師や応募者の人の輪を拡大してきた。政府や大学からの資金提供などを求めず自主的かつ自発的な教育活動であることを鮮明に掲げた2009年度以降、さらに視野を拡大して新たに全国展開している。

「知の市場」は、大きな時代の潮流を先導し、学生や院生に対する学校教育と社会人教育を切れ目なく連結し、さらにプロ人材の育成と高度な教養教育を相互に補完しあうものとして接合することを目指している。加えて社会の全ての人々や組織が何らかの形で教育に関わり全員参加の中で各々の役割を果たして教育を支えていく、そして教育の世界と現実の世界が互いに重なり合いながら高めあっていく真の教育立国を求めている。津々浦々で諸々のことを担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ社会の構築に向かって道を切り開いていくことが知の市場の課題である。

それぞれの機関や個人の自発的な参画と自主的な活動を基本に据えた知の市場の理念の下、運営の基本方針や諸規定そして運営体制などを公開し、マニュアルと受講修了証などの諸様式、「知の市場」のロゴマークなどの統一と標準化を図り、そして共通受講システムを共有しながら参画機関のホームページの相互リンクなどにより協働の基盤を整備し、相互扶助と相互検証を通して連携の強化と教育水準の維持向上を図っている。

「知の市場」は、総合的な学習機会の提供、実践的な学習機会の提供、十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択、大学・大学院に準拠した厳しい成績評価という4つの教育の基本方針の下で活動する。そして、連携機関の協力を得て開講機関が主催して知の市場とともに開講する共催講座と、共催講座での経験などを活かした活動、開講機関や連携機関が実施する活動、自己研鑽と自己実現に資する活動などであって「知の市場」の理念を共有する開講機関の独自の活動である関連講座で構成している。

2. 2010年度の実績と2011年度の計画

共催講座と関連講座を加えた全体では、2010年度は全国31拠点で82科目(100科目相当、1科目は2時間授業15回分で2単位相当)を開講した。2011年度は全国30拠点で80科目(98科目相当)を開講する。このうち2011年度の新規開講科目は合計25科目にのぼる。

共催講座については、2010年度は化学物質総合経営、生物総合経営、コミュニケーション、総合(医療・

保健、労働、食・農、鉱工業製品・医薬品、環境)、社会技術革新の5つの大分類で構成し、東京以外の4拠点を含む15拠間で36科目を開講した。2011年度は大分類に地域を加えて6つの大分類とし、14拠間で39科目を開講する予定であったが、東日本大震災の影響による開講計画の変更などを受け、東京以外の5拠点を含む14拠間で37科目を開講する。

関連講座は教養編、専門編、研修編、大学・大学院編からなり、2010年度は東京以外の6拠点を含む16拠間で46科目(64科目相当)を開講した。2011年度は、東京以外の7拠点を含む16拠間で43科目(61科目相当)を開講する。

講師陣として2010年度は、産業界・業界団体、行政機関、専門機関・研究機関、医療機関、大学・学協会などから様々な実務経験を豊富に有する専門家543名(うち共催講座は317名)が参画した。2004～2008年度の5年間と比較して専門機関や大学・学協会に所属する講師が増加した2009年度と同様の傾向であった。2011年度は講師陣として654名(うち共催講座は363名)が参画する。2011年度は企業が連携機関として参加する科目が大幅に増加するため、講師も産業界の経験者が増加する。

応募動機を精査し適切と判断した応募者については、申込み受付順の早い者を優先として教室の収容人員の範囲内で受講を受理した。2010年は、応募者は3,986名、受講者は3,967名、修了者数は2,406名で、1科目当たりでは応募者49名、受講者48名で、修了者29名であった。2009年度の1科目当たりの応募者43名、受講者41名、修了者21名と比べると科目当たりでは増加した。

2010年度の修了率は60.7%で、2009年度の60.1%と比べると若干増加した。

表 2010年度の開講状況

	科目数	応募者		受講者		修了者		修了率
		計	科目当たり	計	科目当たり	計	科目当たり	
共催講座	36	1,147	32	1,138	32	706	20	62.0
関連講座	46(64科目相当)	2,839	62	2,829	62	1,700	37	60.1
総計	82(100科目相当)	3,986	49	3,967	48	2,406	29	60.7

3. 2009年度と2010年度の共催講座の実績の比較

2010年度の共催講座の応募者の内訳を2009年度と比較して解析した結果は次のとおりであった。なお、共催講座間の比較においては、2010年度の共催講座に入っていない名古屋市立大学を比較の整合性を確保するために2009年度からも除く。

- 1) 年齢構成は20～50歳代の現役世代が3/4強であり、2009年度と類似しているが若干増加した。
- 2) 共催講座の男女比は、2009年度は男性が2/3、女性が1/3であったのに対し、男性が3/4弱、女性が1/4強となり、男性の比率が増加した。
- 3) 応募者の居住地については、居住地データがない科目については開講場所で分類して地域ブロック別に解析したところ、近畿圏と中国圏が増加した。また2009年度は0%だった東北圏が知の市場の東北での開講に伴い2010年度は5%となった。このように全国展開の進展とともに居住地は拡大した。
- 4) 職業別については、2009年度と比較して第3次産業が増加したがほぼ類似しており、社会の広範な分野の者が参加した。
- 5) 新規の応募者と過去に受講したことのある応募者の比率については、両者がほぼ半々で2009年度と類似しているが、新規及び1回の受講者の比率が若干増加した。新規の開講機関が全国で増えたことなどが新規の受講者の増加につながり、知の市場が新たな広がりが増していることを示している。

6) 講座を知った情報源については、上司あるいは教育部門の指示による応募が2009年度の6%から2010年度には18%に急増した。これは知の市場が有効な教育や研修の機会として認められ社会で活用が進んでいることを示している。メールとホームページの合計で過半を占め、電子媒体による情報が主流を占める傾向は継続している。

4. 2010年度の評価

共催講座では15回の授業の終了時点で受講者と講師の双方に対して科目に関する評価を実施した。2010年度の結果の要点は次の通りであったが、過去5年間の傾向から大きな変化はなく、引き続き高い評価であった。

- 1) 受講者は、講義および科目に対して高い満足度を示し、講義に対する理解度も高かった。100%近い受講者が次回も受講したい、或いは、他人にも講座を紹介したいと答えており、社会から高い評価を受けた。
- 2) 講師は受講者の受講態度の良さや受講意欲の高さを評価した。また、受講者との意見交換が充分にできるなど講師自身にとっても良い経験の機会であり自己研鑽の糧とになっていると高く評価した。

5. 今後の課題

「知の市場」は今後も恒常的な教育内容の向上に努める。また、開講分野を拡大し連携機関の拡充を図って、現代社会と世界動向を理解するために必要なより広範で総合的な自己研鑽の機会を提供する。さらに、開講機関の拡充を図って全国展開をさらに進め、自己研鑽の機会の日常化と普遍化を推進していく。また、知の市場共通受講システムの活用などにより知の市場の効率化を一層進めつつ透明性を高めるとともに、双方向のコミュニケーションを強化して認識の共有化を促進し連携と共働を強化する。

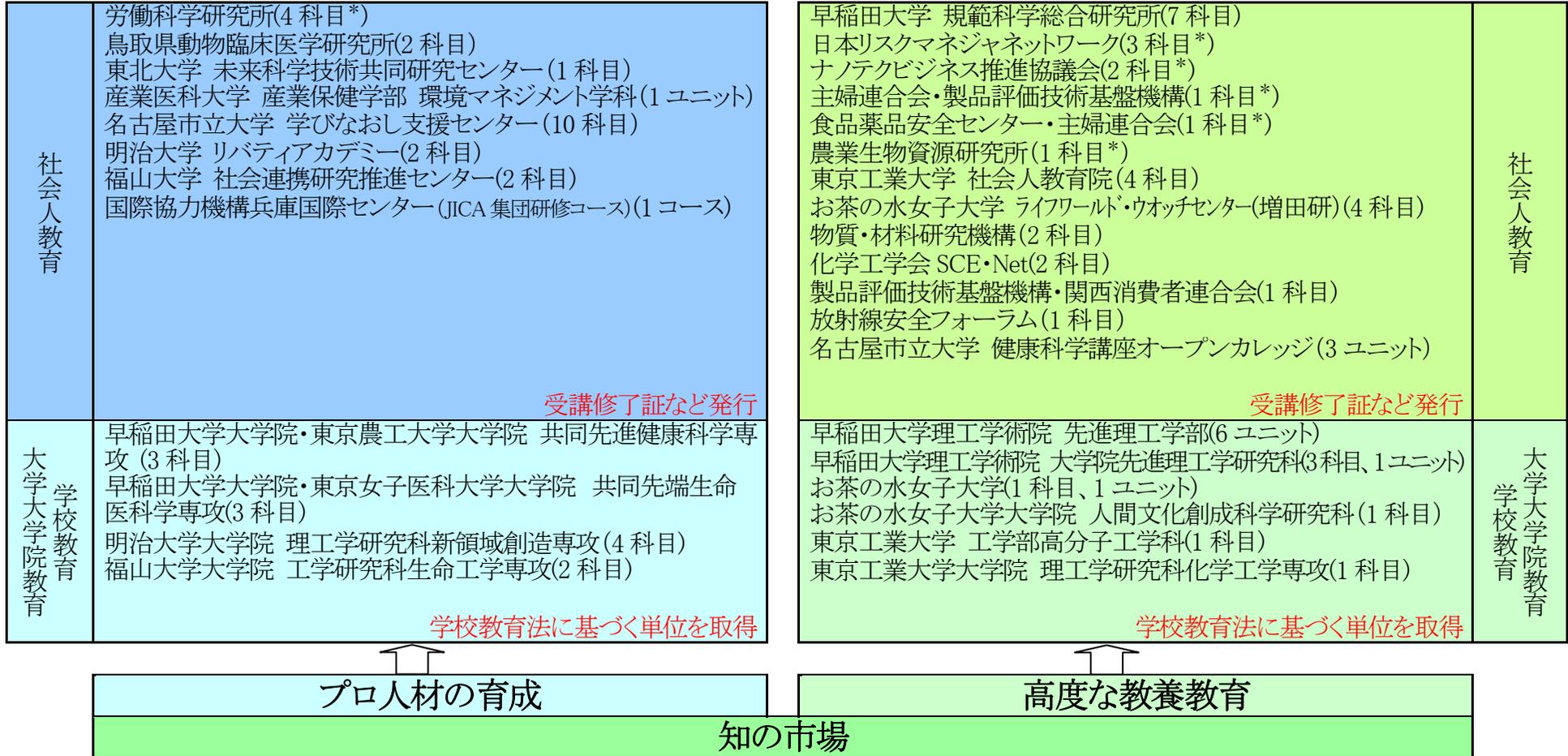
知の市場

「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社会学連携」を旗印として
 実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して
 人々が自己研鑽と自己実現のために自立的に行き交い自律的に集う場

	友の会	連携学会	協力者・協力機関	協議会	知の市場事務局	評価委員会	
共 催 講 座	早稲田大学 規範科学総合研究所		早稲田大学西早稲田キャンパス(東京メトロ西早稲田駅前)		前期4科目、後期3科目、計7科目開講		
	日本リスクマネジメントネットワーク 早稲田大学 規範科学総合研究所		大阪府環境農林水産総合研究所(JR森ノ宮駅)		前期1科目、後期2科目、計3科目開講		
	ナノテクノロジービジネス推進協議会 早稲田大学 規範科学総合研究所		早稲田大学西早稲田キャンパス(東京メトロ西早稲田駅前)		前期1科目、後期1科目、計2科目開講		
	主婦連合会 製品評価技術基盤機構 早稲田大学 規範科学総合研究所		早稲田大学西早稲田キャンパス(東京メトロ西早稲田駅前)		後期1科目、計1科目開講		
	食品薬品安全センター 主婦連合会 早稲田大学 規範科学総合研究所		早稲田大学西早稲田キャンパス(東京メトロ西早稲田駅前)		後期1科目、計1科目開講		
	農業生物資源研究所 早稲田大学 規範科学総合研究所		主婦会館プラザエフ(JR中央線四ッ谷駅前)		後期1科目、計1科目開講		
	労働科学研究所 早稲田大学 規範科学総合研究所		早稲田大学西早稲田キャンパス(東京メトロ西早稲田駅前)		前期1科目、後期3科目、計4科目開講		
	東京工業大学 社会人教育院		東京工業大学田町キャンパス(JR山手線 田町駅前)		前期3科目、後期1科目、計4科目開講		
	お茶の水女子大学 ライフワールト・ウォッチセンター(増田研究室)		お茶の水女子大学(東京メトロ茗荷谷駅、護国寺駅)		前期2科目、後期2科目、計4科目開講		
	物質・材料研究機構		物質・材料研究機構東京会議室(東京メトロ虎ノ門駅、神谷町駅)		前期1科目、後期1科目、計2科目開講		
	化学工学会SCE・Net		お茶の水女子大学(東京メトロ茗荷谷駅、護国寺駅)		後期2科目、計2科目開講		
	鳥取県動物臨床医学研究所		鳥取県動物臨床医学研究所(JR倉吉駅)		前期1科目、後期1科目、計2科目開講		
	製品評価技術基盤機構 関西消費者連合会		関西:八尾市立くらし学習館(婦人会館、近鉄 八尾駅)		前期1科目、計1科目開講		
	東北大学未来科学技術共同研究センター		東北大学未来科学技術共同センター(JR仙台駅からバス)		前期1科目、計1科目開講		
	放射線安全フォーラム		千代田御茶ノ水ビル(メトロ御茶ノ水駅)		後期1科目、計1科目開講		
	(産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科)		産業医科大学(北九州市 JR折尾駅からバス)		(6科目:関連講座として開講。所定の1科目相当の修了者を共催講座修了者として認定)		
	関 連 講 座	I. 教養編	名古屋市立大学 健康科学講座オープンカレッジ	名古屋市立大学川澄キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅前)	3学期制、計3ユニット開催		
			名古屋市立大学 学びなおし支援センター	名古屋市立大学川澄キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅前)	1学期、2学期:各期5科目、計10科目開講		
II. 専門編		産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科	産業医科大学(北九州市 JR折尾駅からバス)	前後期(集中講義):1ユニット開講			
		明治大学 大学院理工学研究科新領域創造専攻 安全学研究所 リパティアカデミー	明治大学駿河台校舎リパティアタワー(JR御茶ノ水駅)	前期1科目、後期1科目、計2科目開講			
		福山大学 社会連携研究推進センター	福山大学 宮地茂記念館(JR福山駅前)	通年:2科目開講			
III. 研修編		国際協力機構兵庫国際センター(JICA集団研修コース): 環境安全のための化学物質のリスク管理と残留分析	JICA兵庫他、各地	1コース(19科目相当)開講			
IV. 大学・ 大学院編		早稲田大学 理工学術院 先進理工学部			6ユニット開講		
		早稲田大学 理工学術院 大学院先進理工学研究科			3科目、1ユニット開講		
		早稲田大学大学院・東京農工大学大学院 共同先進健康科学専攻			3科目開講		
		早稲田大学大学院・東京女子医科大学大学院 共同先端生命医学専攻			3科目開講		
		明治大学大学院 理工学研究科 新領域創造専攻			4科目開講		
		お茶の水女子大学			1ユニット、1科目開講		
	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科			1科目開講			
	東京工業大学 工学部 高分子工学科			1科目開講			
	東京工業大学大学院 理工学研究科 化学工学専攻			1科目開講			
福山大学大学院 工学研究科生命工学専攻			2科目開講				

知の市場の構造

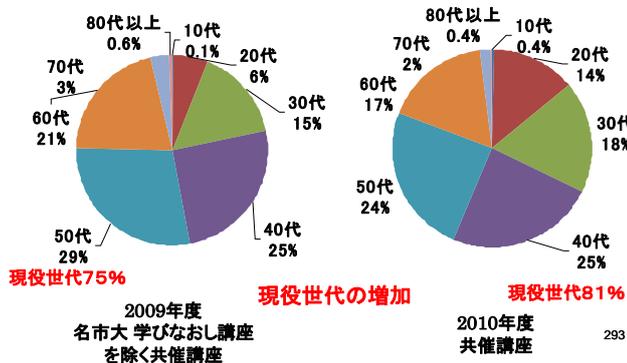
— 講座の位置付け —



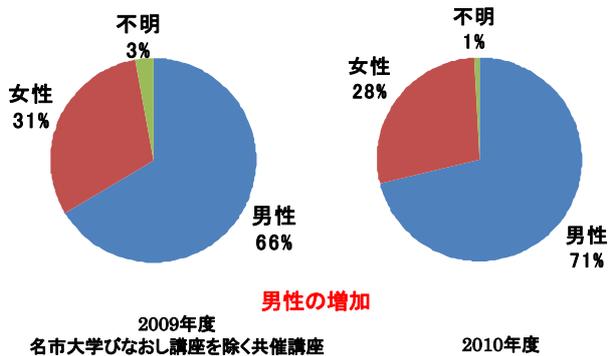
* 早稲田大学規範科学総合研究所との共催科目

共催講座の応募者属性

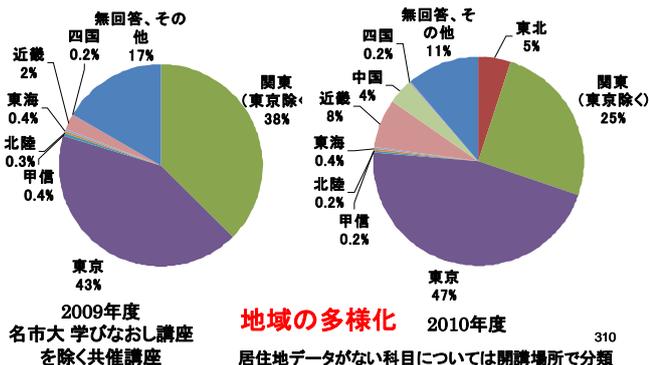
年齢別応募者
—共催講座—



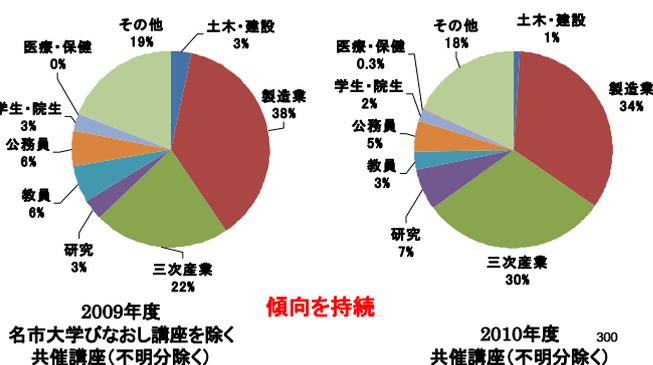
男女別応募者
—共催講座—



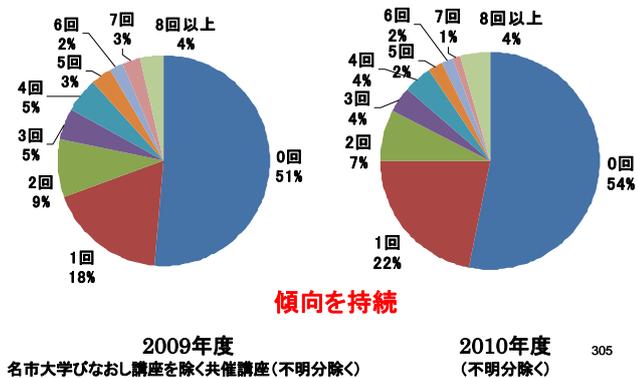
地域ブロック別応募者
—共催講座—



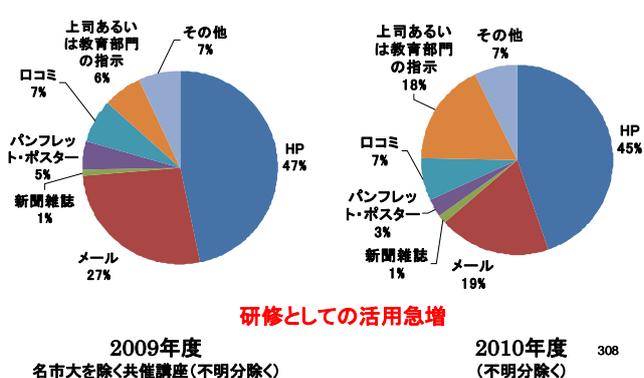
職業別応募者
—共催講座—



応募者の講座継続受講
—共催講座—

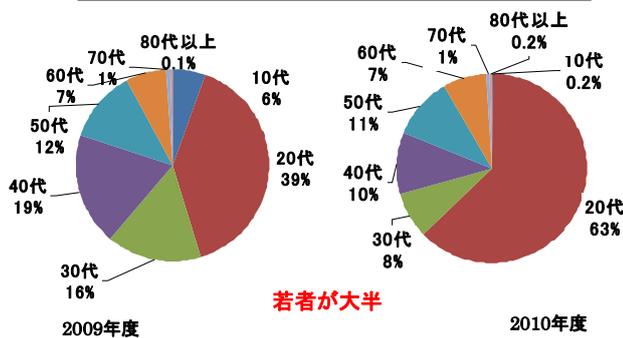


講座を知った情報源
—共催講座—



共催・関連講座の応募者属性

年齢別応募者
—共催・関連講座—

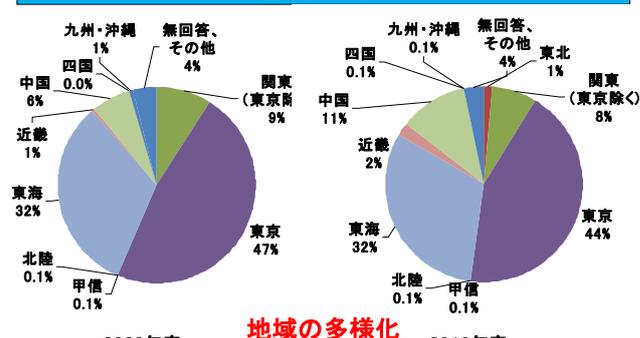


若者が大半

関連講座は大学・大学院編のみを含む
(不明分のぞく)

275

地域ブロック別応募者
—共催・関連講座—



地域の多様化

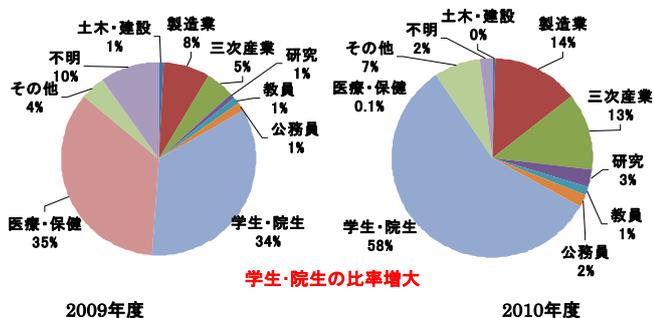
2009年度

2010年度

居住地データがない科目については開講場所での分類

290

職業別応募者
—共催・関連講座—



学生・院生の比率増大

関連講座は大学・大学院編のみを含む

295

